



大会 特集号

府職の友

FUSYOKU NO TOMO

2098号 2020年1月29日

発行所／大阪府関係職員労働組合
〒540-0008 大阪市中央区大手前2-1-59
電話 06(6941)0351・内線3740
直通06(6941)3079 FAX06(6941)4541
Eメール info@fusyokuro.gr.jp
URL/https://www.fusyokuro.gr.jp
発行人／小松 康則 編集人／樋口 浩之
(一部10円)組合員の購読料は組合費に含まれています。

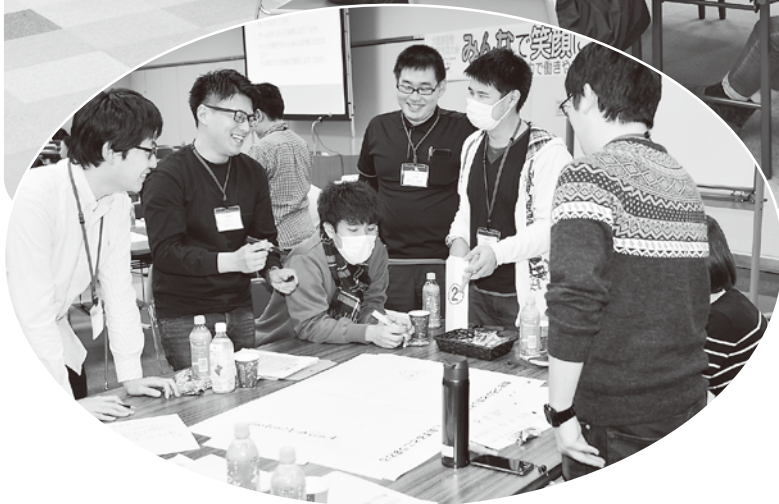
第99回 府職労 定期大会

働きづらさを解決するために みんなで考え声をあげよう

行動することで現状を
変えられることを知った

元気をもらった

楽しく参加できた



12月21日、府職労は「No. Union No. Life みんなで笑顔になるために！私たち自身の力で働きやすい職場をつくらう♡」をメインスローガンに、マイドームおおさかで第99回定期大会を開催しました。大会参加者が日頃の悩みや不安を話し解決策を考えることで、労働組合の役割を感じられるように、ワークショップ形式のグループワークを取り入れ、みんなで議論し、共有しました。各グループからの発表後、一番解決したい課題をみんなで選ぶ投票や大抽選会などもあり、笑顔の絶えない大会になりました。

楽しい雰囲気の中 「参加してる」と実感

大会は小松委員長のあいさつに始まり、経過報告、会計報告、私たちの取り組み方針案がパワーポイントを使ってコンパクトに報告・提案されました。その後は、事前に配布した発言要

旨にもとづいて、16人の代表議員(うち女性6人、青年・若手5人)が発言し、12のグループにわかれて、感想を話し合いました。休憩時間にはBGMが流れ、喫茶コーナーや飲み物、おやつもあって、リラックスした雰囲気が進められました。

やりがいある仕事ができる職場にしよう

発言では、職場での人員不足や、府民や患者に寄り添える仕事がつらい状況がリアルに報告されました。そうした状況でも、やりがいある仕事ができる職場を作りたくて支部や分会ががんばる姿に参加者は感動し聞き入っていました。その後、グループで感想交流のワークショップを行い、思いを深める議論ができました。仕事が忙しく余裕がなくなり職場の風通しが悪くなって、コミュニケーションの不足や人間関係の悪化などの問題が明らかになりました。そうした中でも、私たちの仕事で府民のくらし全般を支えるために、職員ががんばっていることを共有していました。

みんなで考え職場の状況を改善したい！

続くグループワークでは、一番解決したい職場の課題を出し合い、「どんなときに働きづらさを感じるか」ということを共有し、その働きづらさを解消するために何が必要で、自分たちに何ができるかを話し合いました。グループで話し合い1つにまとめて、改善に向けた取り組みの戦略と、現状と問題が解決した状況を絵に書いて発表しました。ここでも多くの職場で人間関係の悪化などが働きづらさにつながっていることが明らかになりました。

仲間づくりを みんなで進めよう

1日を通じて、府職労が職場で府民のための仕事ができる職場づくりをしていることを実感しました。そして、みんなで仲間を増やして府職労の活動をさらに進め、働きやすい職場をつくらうと確認しあいました。すべての議案が全会一致で可決し、向こう1年間の取り組み方針を確認しました。

熱心な議論と 楽しい企画で 「元気をもらった」

すべてのグループの発表の中で、一番改善すべき課



遊歩道

新年早々、トランプ政権によるイラン・ソレイマニ司令官殺害と戦争勃発の危機は、世界を震撼させた。現時点では「開戦」自体は回避されたものの、この軍事的緊張の下で民間機がイランの誤射により撃墜され、176名もの生命が奪われた▼トランプ大統領は「戦争を止めるためだった」といい、安倍政権は日本船舶の安全確保のための調査研究として自衛隊の中東派遣を強行したが、そんな口実が国際社会に信用されるはずもない。戦争を始める政治家のため」と言ってきた▼昨年末、広島に行く機会があり、夜遅くに原爆ドームを訪れた。整備されているとはいえず地面に転がる残骸、屋根が吹き飛ばされた鉄骨、その脇を流れる元安川に死者があふれたことを、喧騒を離れた夜だからか、想像せざるを得なかった▼原爆資料館近くにある全損保の碑には「なぜ、あの日はあった、なぜ、いまもつづく、忘れまい、あのにくしみを、この誓いを」と刻まれている。原爆死没者慰霊碑にある「過ちは繰り返しませんから」との誓い、「なぜ、あの日はあった」への問いかけは、今こそ問われているのではないだろうか。(や)